

令和5年度未来を創る学力向上支援事業に係る第2回授業力向上アドバイザー協議会〈概要〉

1. 目的

令和5年度「未来を創る学力向上支援事業」に採択された授業力向上アドバイザーが、本事業の取組状況や成果・課題について情報交換及び協議することにより、円滑な事業の推進に資する。

2. 主催 大分県教育委員会

3. 日時 令和6年2月6日(火) 13:30~16:10

4. 場所 別府国際コンベンションセンター(ビーコンプラザ)

5. 内容

(1) 開会行事 大分県教育委員会あいさつ 義務教育課 課長 小野 勇一

〇日々、経験年数の浅い先生方へのご指導ご支援にご尽力いただき感謝している。実際に指導を受けた対象者アンケートから授業力向上アドバイザーのみなさまの存在は非常に大きなものであることがわかる。

〇本県の学力に係る課題は2つ、「低学力層の増加」、「学習意欲、学習への愛好度の低下」、この課題解決に向けて授業力向上アドバイザーみなさまの力が必要。引き続きご指導ご助言をお願いしたい。



(2) 行政説明「授業力向上アドバイザーのミッション達成に向けた取組の工夫と充実」

＜説明者＞ 大分県教育庁義務教育課 指導主事 瀧口 忍>

〇改めて授業力向上アドバイザー事業について確認。

- 経験年数の浅い教員等の人材育成を担い、教員の個に応じた課題解決に向けて指導する。
- 経験年数の浅い教員等の授業力向上に向けて指導する。



〇経験年数の浅い教員が現場で悩んでいることや困っていることを具体的に相談していける体制づくりが必要。

〇「R4 人事行政状況調査」の結果より、「精神疾患による病気休職者数」は20代がここ5年で1.6倍と大きく増加。若手休職者の声…知識や技量がないまま飛び込むので一人で何でもするのは難しい。

悩んだときに話を聞いてもらえる環境などがほしい。

一方、「日本教育新聞」の記事より、教職経験6年以下の小・中学校教員のうち、6割以上が「教師になってよかった」と感じている。

大分県でも大きく違いはないと考え、このような実態を鑑みると、授業力向上アドバイザー配置の意義は大きい。

〇今年度は「学力向上達成シート」に加え、制度をより一層よいものにしていく目的で、実際に指導を受けている先生方にもアンケートを実施。

- ・対象者:ステップアップ研修(小・中) I・II受講者
- ・実施方法:無記名によるWeb回答
- ・回答数:220名(アドバイザーの指導を受けていない者も含む)

①採用前の講師経験について…「なし」が56.8%で半数以上。近年増加傾向。

②指導頻度について…頻度と負担感に顕著な関係は見られない。指導頻度によらず概ね満足している状況。対象者のニーズにより期待感や負担感が大きく異なる状況。

③指導・支援の方法について…「授業参観」が大半(96.7%)。対象者の実態に合わせた「アドバイスシート」でフィードバック(53.9%)。「TT指導」(21.1%)による支援等。

④指導・支援の内容について…特に役に立ったと感じていることは、「授業づくり」、「板書の工夫」、「学級づくり」、「保護者対応」、「子どもの褒め方」等。困りが多岐にわたることがわかる。今後指導を受けたいことは、「評価の仕方」が一番多い。「他の先生の授業を見る機会がほしい」という記述も多数。

◆アドバイザー2名の実践の紹介◆

由布市 賀来先生…指導技術のオープン化・シェア
参観した授業のポイントとなる特定の場面を動画で編集。他の先生の授業を見ることが有効。事前に困りを聞いておき、その困りに対応した動画を見せる。
杵築市 利光先生…困ったときに活用することを目的に「教師力向上テキスト」を作成
教科、領域、その他の教育実践に関する内容等、様々な内容を盛り込んでいる。

⑤指導に対する困りについて…「負担に感じることはなく毎回ありがたい」という記述が多数。「時間の確保」が難しい。

◆時間確保について工夫しているアドバイザーの実践の紹介◆

中津市 河野先生…Zoom を活用した指導機会の設定(放課後 30 分程度で実施)
実践を発表したいという若手教員のニーズに応える。対象者同士が授業改善について協議や発表等を行うことで相互に高め合う場として設定。移動時間のカット、教科 1 人配置校(中学校)の教科部会の充実につながる。

⑥指導を受けたことがない人の回答について…受けたい(48%)。理由として客観的に見てもらうことで指導力向上につなげたい。経験年数の浅い先生方の多くが、「指導力向上を目指してがんばりたい」という気持ちをもっていることがうかがえる。

(3) グループ協議「対象者の実態に応じた指導内容や指導方法の検討」

1. 自己紹介
2. 情報交換
 - ・対象者の状況と課題解決に向けて行った指導や支援について、「学力向上達成シート」を使って説明
 - ・特に課題と感じていること、その課題に対する取組を KJ 法で整理
3. 協議
 - ・アドバイザー配置の目的を達成するために、課題解決の優先順位が高いものを3つ程度に絞り、その課題解決に効果的と考えるアドバイザーとしての取組を具体的に検討
4. 協議内容の共有及びまとめ



<協議内容の共有>

- 小学校 A…課題として4つ、授業力と展開力、支援の必要な子への対応、先生方の取り組む姿勢、ビジョンを持った学級経営。対象教員がやってみようという気持ちになることが大切なのでカウンセリングマインドをもって対応する必要がある。当該校の管理職を中心にアドバイザーと連携が必要。
- 中学校 A…課題として2つ、授業力、メンタル面。教材研究やポイントとなることを指導する必要がある。普段の授業を見る機会を設ける。アドバイザーとして話を聴くことが大切で悩みを共有できる存在になること。褒めることや対象教員から求められるまで待つ姿勢が大切。アドバイザーがプレッシャーになる存在ではいけない。
- 中学校 B…課題として主に授業力。アドバイザーとして伝え方に配慮しながら、ペア活動、課題提示、授業規律、教材研究、授業準備等について授業後にアドバイスを行う。他の教師の授業を見る機会をつくる。対象教員が一人で悩まないようにチームで相談できる体制づくりが必要。保護者対応も悩みの一つなので、すべてにおいて報・連・相とコミュニケーションの大切さを伝えていく。

<まとめ>

- アンケート結果から 6 割以上が「教師になってよかった」と回答していることに注目したい。すべての教室、学校でこのような声が聞かれるようになることを願っている。アドバイザーの先生方の力は非常に大きいものとなっており、引き続きお力添えをいただきたい。

(4) 閉会行事

(了)